中学校「Jr.課題研究（サイエンス、グローバル）」のポスター・報告書の作成基準表

佐賀県立致遠館中学校　平成29年10月4日作成

項目	作成基準	配点
研究テーマ	日常生活や、自分にとって興味のある分野に関連してテーマを設定して書いている。	3
	★ただ自由に研究しているのではなく、第三者が価値を感じる「課題」を設定して書いている。	レッツチャレンジ！
要約	全部読まなくても、ここを読めば、「何を明らかにするため、どんな実験・調査をし、何が分かったか。この研究が何に生かされるか。」が分かるように簡潔に書いている。	8
目的	何を明らかにしようとしているのかを明確に書いている。	8
仮説・理論	★先行する研究を調べ、読み、どの部分の何が分かっていて、何が分かっていないかの区別を書いている。	レッツチャレンジ！
	何の要素を変えて、何を測定するのかを明確に書いている。	3
	流れ図や模式図等を用いて、研究の前提となる理論・法則を第三者にも分かるように書いている。	8
使用器具・薬品＊	ここに記述している器具や薬品等を用いて実験・調査すると、同じ実験・調査結果が再現できるように書いている。（大きさ・形、メーカー名、ロット番号等）	3
方法	写真や図を適切に使用して、どのような方法で実験・調査したのかが第三者にも分かるように明確に書いている。	8
	★実験・調査方法を文献から引用している場合、何年の誰の何の論文から引用したかを書いている。	レッツチャレンジ！
	一つの実験・調査では、ある一つの要素だけを変化させ（他の要素は変化させず）、その結果生じる値の変化を測定することを書いている。	6
結果	実験・調査結果を表・グラフにまとめ、表・グラフの説明を書いている。	7
	表・グラフの選択は適切であり、軸の要素をそれぞれ示し、表の上に「表１」やグラフの下に「グラフ１」等のキャプチャを書いている。	4
	★グラフに、箱ひげ図や近似直線・近似曲線を描いて、グラフの傾向をより正確に表している。	レッツチャレンジ！
考察	表・グラフのデータから読み取れる範囲で、無理のない論を導出して書いている。また、データとは無関係な、思いつきや願望による突飛な考察を書いていない。	10
	仮に、仮説と異なる実験・調査結果になった場合、実験・調査結果の方を優先してデータに基づき論を導出して書いている。	7
	仮に、各実験・調査で実験・調査結果が同様になった場合（異なった場合）、無理に差が出るような（無理に差が出なくなるような）解釈をせずに論を導出して書いている。	5
まとめ・展望	研究テーマ、目的、仮説、方法、結果、考察がブレずに一貫している。	7
	単なる希望や期待ではなく、実験・調査結果と考察に基づく今後の研究方針を書いている。	4
謝辞	★助言を受けた場合、「本研究にあたり、〇〇大学〇〇学部〇〇学科教授〇〇〇〇先生に多くのご助言をいただいたことに深く感謝申し上げます。」などを書いている。	レッツチャレンジ！
感想＊	楽しかったや難しかった等の気持ちや心情ではなく、学習活動として課題研究を振り返り、今後の学びに向け何をどう改善するかを具体的に書いている。	3
引用文献・参考文献	記載のルールに従って引用文献や参考文献を書いている。	3
	サイトの情報を記載する場合、引用した日時も書いている。	3
フォント※	読みやすい（見やすい）文字の大きさやフォントの種類で書いている。	3
	背景の色と文字の色の関係に注意して、識別しやすいように書いている。	3

＊は報告書だけに関係する項目。※はポスター・パワポ資料だけに関係する項目。★は高校の課題研究・探究活動だけに関係する項目。